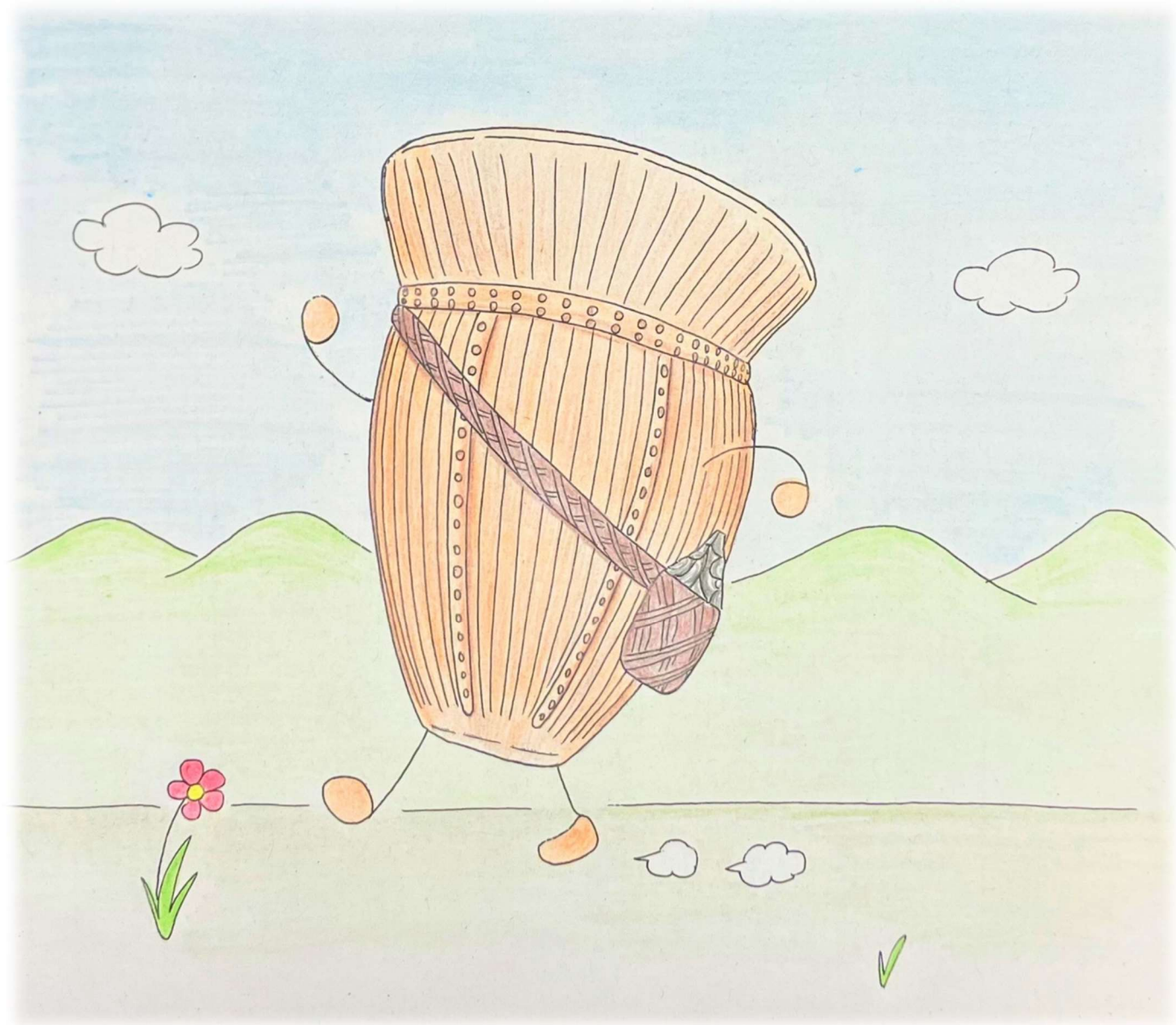


ようこそ はるばる おけがわへ

～縄文時代のモノと移動～



桶川市域は、古くから交通の要衝として栄えてきました。それを物語るのが、他地域の影響を受けた「モノ」の数々です。

今回の企画展では、桶川市内で最も多く確認されている縄文時代の遺跡から出土した、他地域にルーツをもつ「モノ」に焦点を合わせて、当時の地域間交流の様子を紐解いていきます。

Ⅰ 縄文時代のはじめごろ

縄文時代は約10000年間続いたと考えられており、草創期・早期・中期・前期・後期・晩期の6時期に区分されています。その時期区分の指標のひとつが「土器型式」です。土器型式とは、文様や器形など、共通の特徴をもつ土器のグループのことを指します。土器型式の名称は、基本的にその型式がまとまって出土した遺跡の名前から付けられることが多く、型式名の由来となった遺跡を「^{ひょうしきいせき}標式遺跡」といいます。土器型式は地域差が現れることもあるため、地域間交流を考えるうえで重要な手がかりにもなります。

草創期には、桶川市内では地域間交流の明確な痕跡は見つかっていませんが、早期に入ると少しずつ他地域との交流が活発になります。早期中葉（約9000年前）には、中部高地（長野県・山梨県）以西に分布の中心がある^{おしがたもん}押型文土器がみられ、前期後葉から末葉（約6000年前）には、貝殻の縁で描いた文様（^{かいがらふくえんもん}貝殻腹縁文）が特徴的な東関東の^{うきしましき}浮島式土器や、特殊な隆帯をもつ近畿地方の^{りゅうたい}大歳山式土器^{おおとしやましき}が確認されています。



1



2

▲ 押型文土器（1:三ツ木^{みつぎ} 2:殿山南^{とのやまみなみ}）



▲ 押型文土器（長野県山の神^{やまかみ}）
大町市文化財センター蔵



1



2

▲ 浮島式土器（1・2:殿山南）



▲ 貝殻腹縁文（拡大）



▲ 大歳山式土器（殿山南）



▲ 大歳山式土器（京都府志高^{しだか}）

2 縄文時代のなかがろ

中期前葉(約 5300 年前)には、市東部の天神北遺跡^{てんじんきた}で北陸の新崎式系土器^{にんざきしき}が確認されています。新崎式土器は、口縁部や胴部等に蓮華状の文様が施されていることが大きな特徴です。そして、市西部の高井遺跡^{たかい}では、器面に四角い文様が充填されるパネル文土器^{もん}も出土していますが、これもルーツをたどると北陸の新崎式土器に行きつきます。このほか、市西部の殿山南遺跡^{とのやまみなみ}では、東関東の阿玉台式土器^{あたまだいしき}と西関東から中部高地にかけて分布する勝坂式土器^{かつさかしき}の折衷型ともいえる土器も出土しています。

中期後葉(約 5000 年前)になると、中部高地の曾利式土器^{そりしき}の影響を受けた土器がみられるほか、市西部の前原遺跡^{まえはら}で出土したトロフィー形の台付鉢^{だいつきばち}には、関東地方の加曽利E式土器^{かそりしき}の文様と東北地方南部の大木9式土器^{だいぎしき}の文様が同居しています。

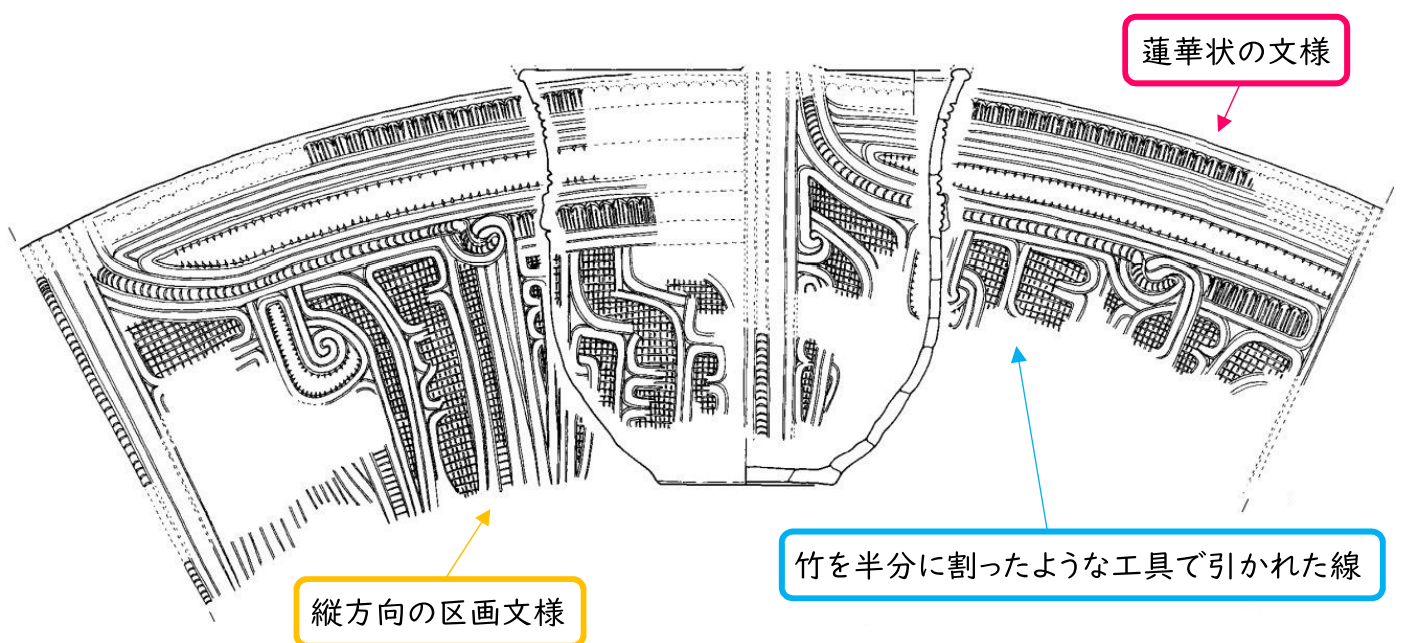
中期のおけがわでは、高井遺跡をはじめ大規模なムラが営まれますが、そこを舞台に活発な交流が繰り広げられていたようです。



▲ 新崎式系土器(天神北)



▲ パネル文土器(高井)



▲ 新崎式土器
(富山県厳照寺)



ヒレのような突起や「凹」のような文様
＝阿玉台式（東関東）

+

隆帯横の幅広の押引文やペン先状の
工具による連続刺突文
＝勝坂式（西関東～中部高地）

▲ 勝坂式と阿玉台式の折衷型（殿山南）



▲ 曽利式系土器（ふじま山）



▲ 折衷型の台付鉢（前原）
埼玉県教育委員会蔵

大柄な渦巻文
＝大木 9 式
（東北南部）

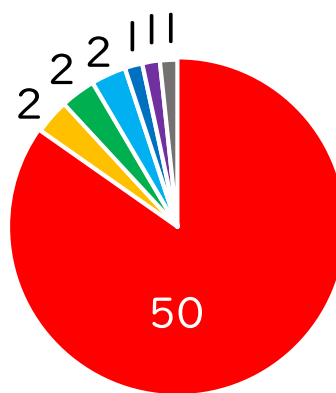
「∩」字状の文様
＝加曽利 E 式
（関東）

黒曜石の流通

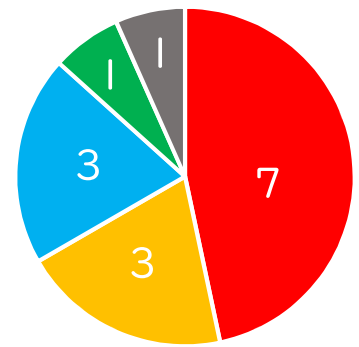
中期後葉のふじま山遺跡出土の黒曜石の原産地を科学的に分析したところ、一部伊豆諸島の恩馳島産や伊豆半島の柏峠産などが含まれていましたが、大半が西霧ヶ峰産であることが分かりました。この傾向は後期・晩期も変わらず、市東部の後谷遺跡で出土した黒曜石の原産地も同様の比率を示しています。



▲ ふじま山・後谷の黒曜石原産地



▲ ふじま山（総数 59）



▲ 後谷（総数 15）

西霧ヶ峰系 和田峠・鷹山系 冷山・麦草峠系
恩馳島系 畑宿系 柏峠系 不明

▲ 黒曜石の原産地の比率

3 縄文時代のおわりごろ

後期から晩期にかけては、東北方面と精神的に強いつながりがあったとみられます。市西部の高井東遺跡^{たかいひがし}で出土した後期中葉（約 3500 年前）の人面付注口土器は、東北地方に類例が数点あります。市東部の後谷遺跡^{うしろや}では、東北地方で晩期にみられる遮光器土偶^{しゃこうきどぐう}の影響を受けた土偶や、北海道恵庭市カリンバ遺跡例に類似した漆塗り櫛^{えにわし}が出土しています。

東北方面以外にルーツをもつモノとしては、^{かしはらしきもんよう}檀原式文様という近畿地方の土器文様が描かれた浅鉢が確認されています。また、後谷遺跡で出土している脚付土器^{あしつき}や石剣^{せきけん}は、海を越えたユーラシア大陸との関連性も考えられます。



▲ 人面付注口土器（高井東）
埼玉県教育委員会蔵



▲ 東北の人面付注口土器（1：秋田県^{きつねもり} 狐森 2：宮城県^{げ べつとう} 下別当）
1：秋田県立博物館蔵 2：仙台市博物館蔵



左：遮光器系土偶（後谷）
右：遮光器土偶（青森県^{かめがおか} 亀ヶ岡）
東京国立博物館蔵



▲ 檀原式文様の浅鉢
（1～3：後谷^{なかだい 2} 4：中台Ⅱ）



▲ 完形の檀原式文様の浅鉢（さいたま市^{ならせと} 奈良瀬戸）
さいたま市立博物館蔵



▲ 脚付土器（後谷）



▲ ユーラシア大陸東部の脚付土器（金子 2024:図4より引用）



▲ 石剣（後谷）



▲ 金属剣（中国：西周～春秋時代） 東京国立博物館蔵



小地域間の交流

広域的な交流の一方で、小さい地域どうしの結びつきも強くなります。後期中葉（約 3500 年前）の高井東遺跡の釣手土器と、さいたま市緑区馬場小室山遺跡例は、細部に違いはあるものの、瓜二つです。また、後谷遺跡の後期後葉（約 3300 年前）の板状ミミズク土偶は、さいたま市岩槻区真福寺貝塚例と共通する作りとなっており、晩期中葉（約 3000 年前）の中空ミミズク土偶は、鴻巣市赤城遺跡例と形状がかなり類似しています。大宮台地上の道や河川を通じて、密につながっていた様子がうかがえます。



▲ 釣手土器（高井東）
埼玉県教育委員会蔵



▲ 釣手土器（さいたま市馬場小室山）
さいたま市教育委員会蔵



▲ 中空ミミズク土偶（後谷）



▲ 中空ミミズク土偶（赤城）
埼玉県教育委員会蔵

おわりに

縄文時代のおけがわの人々は、広域的な交流を繰り返しつつも、近くのムラに住む人々とのつながりを大切にしながら日々の生活を送っていました。このことが、他地域にルーツや共通点をもつ「モノ」に着目することで分かってくるのです。

【謝辞】

本企画展示及び図録の刊行にあたっては、下記の方々から御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。

(敬称略、個人・機関別五十音順)

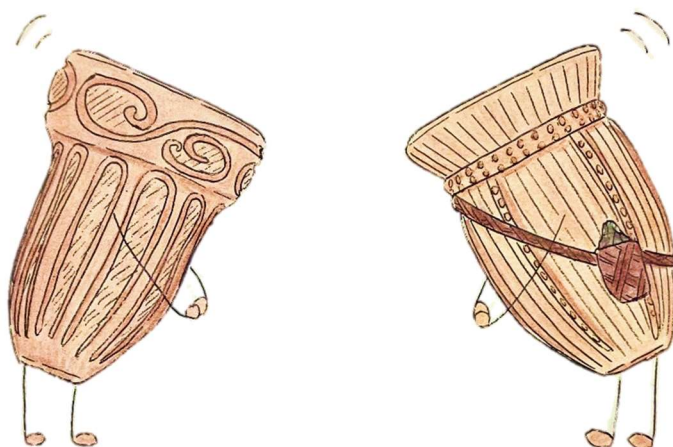
大野 淳也、小倉 均、金子 直行、高橋 龍三郎、中沢 道彦、町田 賢一、村田 章人、秋田県立博物館、
いわき市、いわき市考古資料館、恵庭市郷土資料館、大町市文化財センター、小矢部市教育委員会、
埼玉県立さいたま史跡の博物館、さいたま市教育委員会、さいたま市立博物館、仙台市博物館、東京国立博物館、
富山県埋蔵文化財センター、舞鶴市

【引用・参考文献】 ※編著者名五十音順

- 阿部 千春ほか 2013「蔵王町下別当遺跡出土の人面装飾土器」『仙台市博物館調査研究報告』第32・33 合併号、pp.107-118
仙台市博物館
- 飯塚 真人 2021a「『新崎式土器』の再検討 ―遺構・層位的事例に着目して―」『溯航』第39号、pp.3-29
早稲田大学大学院文学研究科考古談話会
- 飯塚 真人 2021b「縄文時代中期前葉の埼玉県内における北陸系土器 ―飯能市芦荻場遺跡・嵐山町行司免遺跡の事例に着目して―」『埼玉考古』第56号、pp.17-41 埼玉考古学会
- 飯塚 真人 2023「東部地域の縄文時代後晩期の様相」『埼玉県の縄文時代後晩期研究の現状』pp.18-22、埼玉考古学会
- 飯塚 真人 2024「蓮華弧線文土器の提唱 ―縄文時代中期前葉の中部高地における一地方類型の検討―」
『縄文文化の探求―高橋龍三郎先生古稀記念論集―』pp.23-32、六一書房
- 浦和市教育委員会 1985『浦和市東部遺跡群発掘調査報告書 第5集』同市教育委員会
- 恵庭市郷土資料館 2014『国指定史跡カリンバ遺跡 図録』同資料館
- 太田 圭一 2023「縄文時代中期末葉から後期前葉における土器群と遺構の関係について―福島県域における屋外土器埋設遺構の分析とその位置づけ―」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第36号、pp.1-48、東京大学文学部考古学研究室
- 大塚 達朗 1995「榎原式文様論」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第13号、pp.79-141、東京大学文学部考古学研究室
- 小倉 均 2006「さいたま市立博物館保管の関東以西の縄文時代晩期土器について」『さいたま市博物館研究紀要』第5集、pp.37-40、さいたま市立博物館ほか
- 小矢部市教育委員会 2007『桜町遺跡発掘調査報告書 木製品・繊維製品・植物編』同市教育委員会
- 金子 直行 2024「縄文時代後期の有脚容器考―動物意匠から獣脚の成立についての予察―」
『縄文文化の探求―高橋龍三郎先生古稀記念論集―』pp.63-72、六一書房
- (株)東京航業研究所 地球化学分析室 2019「桶川市ふじ山遺跡出土黒曜石の産地推定結果報告書」
『ふじ山遺跡 第2次発掘調査報告書』ふじ山遺跡発掘調査会
- 岐阜市教育委員会 1995『御望遺跡―市道西郷1号線建設に係る緊急発掘調査の記録―』同市教育委員会
- (公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『ここまでわかったおけがわ史』講演会パンフレット 同事業団
- 小林 謙一 2019『縄紋時代の実年代講座』同成社
- 小林 達雄編 2008『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989『京都府遺跡調査報告書 第12冊 志高遺跡』同センター
- 谷口 康浩 2019『入門 縄文時代の考古学』同成社
- 富山県教育委員会 1977『富山県砺波市厳照寺遺跡緊急発掘調査概要』同県教育委員会
- 長野県立歴史館 2017『進化する縄文土器 流れるもようと区画もよう』同歴史館
- 松田 光太郎 2015「北白川下層Ⅱc式・Ⅲ式土器の変遷 東海・近畿地方における縄文時代前期後葉の土器様相」
『千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書』pp.17-36、千葉大学大学院人文社会科学研究所
- 明治大学古文書研究所 2011『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 ―基礎データ集〈2〉―』同研究所

【図録の図版出典】

- 1 p.1 「押型文土器(長野県山の神)」:大町市文化財センター提供
 - 2 p.1 「大歳山式土器(京都府志高)」:舞鶴市提供
 - 3 p.2 「新崎式土器」:富山県教育委員会 1977 第13図1
 - 4 p.3 「ふじ山・後谷の黒曜石原産地」:地理院地図を基に桶川市歴史民俗資料館が作成。
 - 5 p.4 「東北の人面付注口土器」:狐森遺跡…秋田県立博物館提供 下別当遺跡…仙台市博物館提供
 - 6 p.4 「遮光器土偶」:東京国立博物館研究情報アーカイブス(<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/>)より引用
 - 7 p.5 「ユーラシア大陸東部の脚付土器」:金子 2024:図4より抜粋
 - 8 p.5 「金属剣」:東京国立博物館研究情報アーカイブス(<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/>)より引用
 - 9 p.5 「中空ミズク土偶(赤城)」:埼玉県教育委員会提供
- 上記以外は全て桶川市歴史民俗資料館が撮影・作成した。



- 1 本書は、令和7年3月7日（金）から4月20日（日）まで開催する、令和6年度桶川市歴史民俗資料館企画展示「ようこそ はるばる おけがわへ ～縄文時代のモノと移動～」の展示図録です。
- 2 本展示及び図録は桶川市歴史民俗資料館の飯塚 真人が企画・構成しました。
- 3 資料の展示順序と図録の掲載順序は異なります。また、図録に掲載していない展示資料もあります。
- 4 実年代は、小林謙一 2019『縄紋時代の実年代講座』の内容を参考にしました。

令和6年度 桶川市歴史民俗資料館企画展示図録
「ようこそ はるばる おけがわへ ～縄文時代のモノと移動～」

発行日 令和7年3月1日

編集・発行 桶川市歴史民俗資料館

〒363-0027

埼玉県桶川市川田谷 4405-4

（桶川市川田谷生涯学習センター内）

☎ 048-786-4030

印刷 桶川市歴史民俗資料館